

てもよいのですが、一般には平板の上に忍み上げ、雨手であしつけて水をきるやうにします。

◇ 絹・毛・人絹・スフなどを、強くねぢつてしぼるとどうなりま
すか。

三 干し方

しぼつたものは、しわを伸し、形を整へて乾かしますが、色のあせ
やすい色物は日かげに干します。乾かすには、その形によつて、物干
竿・衣紋掛・網などに掛けるか、或は張り手に張ります。又、毛糸・
人絹の絹み物のやうに、濡れると伸びて形のくづれやすいものは、な
るべく張力がかゝらないやうに注意して干します。

仕上げ

洗濯したものは、その用途に適するやうに、仕上げをします。どんな
に上手に洗つても、仕上げがわるいと見ばえがしません。

仕上げ用の糊としては、白い物には、生・熟糊・姫糊のやうな澱粉類を、
色物には、布海苔又は前記の澱粉類を用ひます。澱粉類は水を加へ、軽
く煮て糊とします。布海苔は数時間温湯に浸し、中火でよく煮て糊とし、
濾し袋で濾して用ひます。袋の中に残つた濾しかすは再び温湯を加へて
煮てから更に濾して用ひます。

糊液は濃いめに作つて置き、これを適宜に薄めて用ひます。

糊付けには、すゝいでしぼつて直ぐ行なふ場合と、一旦乾かしてから
行なふ場合とがあります。糊のきゝめは糊の種類や濃さによるほか、布
に含まれる水分の多少及び糊付け後のしぼり方などによつて、著しく左
右されます。



中等被服二

文部省

[中] Y .30

(112)

昭和二十一年四月一日印刷 同日開始印刷
昭和二十一年四月五日發行 同日開始發行
〔昭和二十一年四月五日 文部省検査済〕

中等被服 二 〔中〕定價參拾錢

著作権所有 著作者 文 部 省

發行者

東京葛飾田原岩本町三番地
發行所 中等學校教科書株式會社
代表者 總 井 寅 雄

印刷者 大日本印刷株式會社
代表者 佐久間 長吉郎

APPROVED BY MINISTRY
OF EDUCATION
(DATE Apr. 1, 1946)

發行所 中等學校教科書株式會社

教科書番號 112ノ二

三 帶 六

半幅帶 七

なごや帶 七

〔増〕組合はせ帶 七

四 單長着 三

大裁ち女物(その一) 三

大裁ち女物(その二) 三

大裁ち男物 三

中裁ち 三

五 羽織 三

羽織 三

標準服乙型の羽織 三

はんてん 三

六 乳幼児の被服 三

乳兒用うは着 三

乳兒用下着 三

靴下(絹み物) 三

〔増〕うは着(絹み物) 三

〔増〕運動服上衣 三

〔増〕女學生用靴下(絹み物) 三

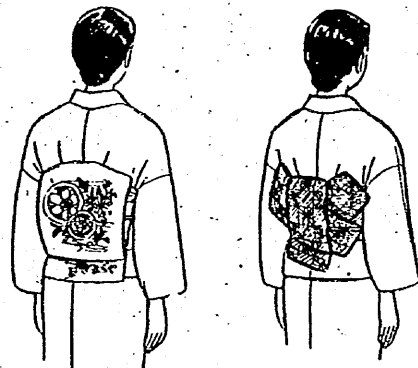
◇ 布の地質や用途によつては、糊を附けない場合があります。その例を挙げてごらん下さい。

◇ 糊附けする主な目的を考へてごらん下さい。

◇ 糊附けする場合、すゝいでしぼつたばかりのものと、一旦乾かしたものでは、糊の濃さをどう加減しますか。両方の仕方の得失に就いて考へてごらん下さい。

仕上げの方法には、畳みつけ・板張り・仲子張り・湯伸し・アイロンかけなどがあります。これらは織物の種類・用途その他の事情により、それ／＼適否がありますから、どれによるかをよく考へてしなければなりません。

三 帶



◇ 現代に用いられてゐる帯の種類を挙げてごらんない。

帯は服装の全體を引きしめるものでもありますが、その地質や色、柄など適當なものを選び、結び方にも注意しなければなりません。保健の上からいへば、重要な内臓を保護するのに役立ちますが、幅の廣い、重い帯を胸高にしろと、却つて内臓を壓迫しますから、狭く、軽く仕立てることが大切です。

地質

帯側 うは着・羽織などよりはやゝ厚地の物を選びます。

心 側の厚さや固さに相應しなければなりません。普通は厚地のなるべくしわにならないものを選びます。綿織物又は木綿と他の様々との交織物や、近頃は紙布の心も用ひます。古い浴衣類を利用することもできます。

仕立て方

半 幅 帯

並幅を半分に折つて仕立てるので、かう呼んでゐます。元來は子供帯として、又は大人の羽織下帯として用ひたものですが、近來はこれ一般に用ひようとする傾向にあります。殊に標準服乙型には適當とされてゐます。

一寸法

標準服乙型のは幅一七センチ（四寸五分）以内、長さ二八〇センチ（七尺四寸）程度で、長さは體格によつて加減します。胴廻りをうは着の上から測つて、その二倍に、手の分として六〇センチ（二尺六寸）、結びの分として七〇センチ（一尺八寸五分）ぐらゐを加へます。

二 地直し

帯をしめてからくるはないやうにするために、帯側・心とも地直しが大切です。

帯側 兩耳を少し伸ばし加減に同じ程度に伸ばし、伸びにくいものは、淺く斜めに切り込みを入れます。次に裏から火のしをかけて、全體の布目を正しくします。

◇ 人絹や、絹と人絹の交織物などは、裏から霧を吹いて火のしをかけますが、そのために色にじむおそれがあったら、どうしますか。

心 全體を水に浸し、おししぼりにして乾かし、火のしをかけます。

紙布は唯、火のしをかけるだけにしておきます。

紙帯心はよくたいき柔げます。

浴衣類は洗つて糊を附け、敷伸し仕上げにします。

三 標附け

幅を二つ折りにし、その幅の中央に適當な間隔で待針を打ちます。

幅・丈とも縫ひ代の少し内側を、図のやうにしつけ糸で假とちします。

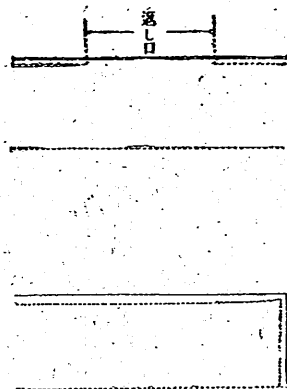
幅は出来上り寸法にきせとゆとりとを加へ、丈は、繰出しのあるものはその位置に注意してきめます。

角が正しく直角になるやうに薄く通し標をして、丈の中央と、そこから手の方へ二・五センチ（六寸五分）寄つた所とに、返し口の標をしておきます。

◇ 角を正しく直角に仕上げるには、兩端の標をどのやうに附けますか。

四 縫ひ方

(イ) 側縫ひ 兩端から一五センチ（四寸）ぐらゐは半返し縫ひにし、返し口を残して縫ひます。返し口の止まりまでは、糸留めをしない

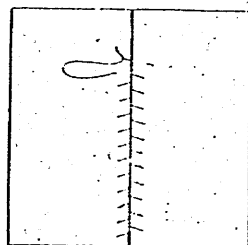


でおくか、又は図のやうにします。兩端は半返しに縫ひます。角の所は、縫ひ代の折り返る間は、標より少し浅く縫ひ出しておきます。

(ロ) 心ごしらへ 先づ耳を裁ち落して、幅を出来上りの帯幅に裁ちます。

◇ 浴衣地などの薄地の物を利用する場合には、どうしたらよいでせうか。

心をばぐならば、図のやうに突合はせはぎにします。



(ハ) 心とち 縫つた帯側の縫ひ目に平こてを當てて縫ひ目を整へ、きせをかけ、丈縫ひ代を先に折つてとち、次に幅縫ひ代を折つてもう一度とちます。

◇ 角をとち終つてから、丈の縫ひ代がゆるまないやうにするには、どうしますか。

次に帯側を平に置き、上に心を重ね、ややゆるめにして、幅の中央に適當な間隔で待針を打ちます。次に返し口を残して心をとちます。

(ニ) しつけと返し口の始末

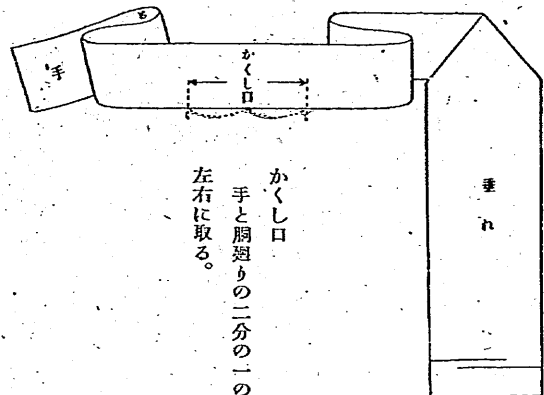
縫ひ目が正しく毛抜合はせになるやうに抜き針でしつけをかけます。返し口の間は、帯側の縫ひ代で心をくるんとちでから合



はせてしつけをかけ、小針でくけます。
 (ホ) 仕上げ 當て布か半紙の類を當てて、雨面から火のしをかけ、
 適當に疊んでおしを置きます。

なごや帯

一、寸法



垂れ 二七センチ (七寸) 内外。體格・年齢や季節などを考へてき
 めます。

丈 九〇—一〇〇センチ (二尺三寸八分から二尺六寸五分)。

胸廻りと手

幅 垂れの半分か布幅一ばい。

丈 二一〇センチ (五尺五寸) 内外 (胸廻りの二倍と手)。

かくし口 三〇センチ (八寸) ぐらゐ。

二 地直し

三 縫ひ方

(イ) 垂れ 垂れの間を二枚平に合はせて幅の中央に待針を打ち、先づ兩方の縫ひ代をきめます。この時、模様・縞の位置などに注意して、出来上りの帯幅の間にかつかうよく出るやうにきめて、圖のやうに假とわします。次に本縫ひは、出来上り幅よりきせとゆとりだけ廣く標して、半幅帯と同じ要領で縫ひます。手とのさかひ目は三センチ (八分) 縫ひ残しておきます。

最後に垂れの端を縫ひます。

(ロ) 手・胸廻り・かくし 手と胸廻りの部分を串表に折つて、半幅帯のやうに假とらし、幅標とかくし口の標とを附け、かくし口と返し口とを残して、本縫ひします。返し口は垂れと胸廻りとのさかひで三〇センチ (五寸三分) 残します。次にかくしを作りま。

かくし布

丈 かくし口の長さ四センチ (一寸)。

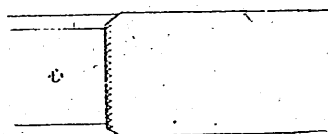
幅 出来上り幅より〇・五センチ (一分) 狭いものの二倍。

かくし口の間の假とちをほどき、幅標から〇・八センチ (二分) 内側へ、かくし布の縫ひ代も〇・八センチ (二分) にして縫ひ附け、かくし布の方へ折ります。兩側とも同じにします。

◇ かくし布は、縫ひ附けてから、帯の幅よりどれくらい狭くする必要がありますか。

(ハ) 心とち 出来上り幅に裁ち、先づ、垂れの間だけ心の釣合を取つてとち附けて、表へ返します。胴廻りとのさかひの端は、三センチ(八分)縫ひ残した所を斜めに折り、圖のやうに千鳥がけで心にとち附けます。

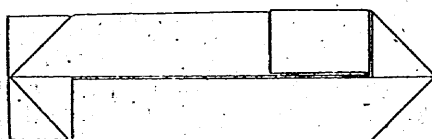
◇ 垂れの間縫ひ代は、どちらへ折つたらよいでせうか。



胴廻りと手の間は、心で縫ひ代を挟んでとちます。但し、かくし口と返し口とは向かふと手前と別々にとちます。かくし布の兩端は縫ひ合はせて心にとち附けます。

◇ 心には真綿をひくことがあります。が、どんな場合でせうか。ひくとしたらどんな注意がいりますか。

(ニ) しつけと返し口の始末
(ホ) 仕上げ

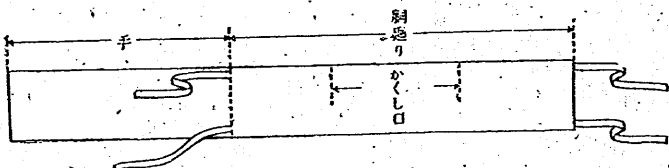
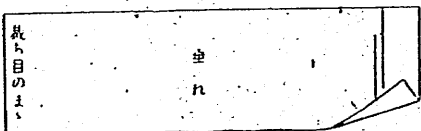


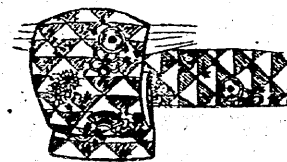
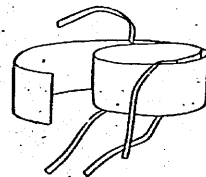
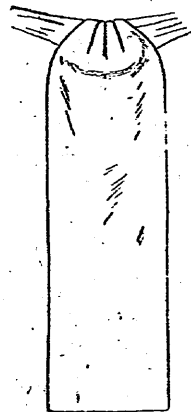
着用・手入れ

帯の着用にはどんな注意がいりますか。
帯の結び方をいろ／＼工夫してごらん下さい。

〔増〕 組合はせ帯

組合はせ帯にはいろ／＼あります。次のはその一例で、半幅仕立ての部分だけを羽織下帯として用ひることもできます。





四 單長着

單長着は、長く用ひられて來た夏季のうは着であります。輕快で風通しがよく、脱ぎ着にも便利なのが特徴です。男物と女物とでは、地質も色・柄も形も違ひます。又、年齢によつて、おのづから差別があります。

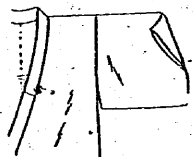
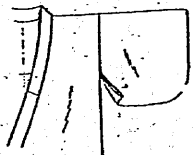
大裁ち女物（その一）

形



元祿袖

角袖



材料

標準服乙型にならひます。

仕立て方

一寸法

身丈 一五〇センチ(三尺九寸五分)内外。

くろ越し 一一二センチ(三分から五分)。

ゆき 六二センチ(一尺六寸五分)。

肩幅 三〇センチ(八寸)。

袖幅 三二センチ(八寸五分)。

袖丈 三八センチ(一尺)内外。

袖口 舟底袖 一七センチ(四寸五分)。
元祿袖・角袖 一一センチ(五寸五分)。

袖附け 二三センチ(六寸)。

身ごろ總幅 並幅四布ぐらゐ。

身八つ口 一三センチ(三寸五分)。

衿肩あき 八・五センチ(二寸三分)。

衿幅 五センチ(一寸三分)内外。

衿下 七六センチ(二尺)。

腰骨の下五センチ(一寸三分)ぐらゐの所から足の甲まで(身丈の二分の一)。

二裁ち方

(一) 地直し

(二) 裁ち方

裁つ前に柄合はせに注意し、又織りむら・染めむら・しみなどは目立たない所に行くやうに工夫します。

文部省調査局刊行誌寄贈

(後) ¥ 1.25

(112)

中等被服二

文部省